



懐かしくて、温かい。



梅雨空が続くときには、色彩や形で家の中を明るく、すっきりと。白をベースにした彩色が心地よい空間とひとときをつくってくれることでしょう。素朴で温かみのある手触りになごみながら、そっと吹くと「ホー」という優しい音色で癒されます。



津軽 下川原焼

上流階級の子供たちしか玩具を持つことができなかつたことを憂いた津軽藩九代藩主が、冬の内職として素焼きの土人形を作るよう命じたことで誕生した下川原人形。多くの行商の手によって庶民に浸透していき、なかでも有名なのがこの『鳩笛』。

じわじわ人気上昇中!
ほうじ茶は緑茶以上に優秀?
ダイエット・美容・健康に効果的!

香ばしい薫り



この夏はほうじ茶を麦茶感覚で

多めの茶葉を少なめのお湯で濃く抽出した後、アイ스티ーの要領で氷満点のグラスに注ぎ入れるか、あるいはティーパックに入れた状態で少量抽出したあと水出し麦茶と同じようにポットに水と入れてほっとくだけでもOK。

お試しあれ、ほうじ茶ラテ・プリン



ほうじ茶がやさしく香る、なめらかプリン。



使用している商品

伊藤園「TEA TEA NEW AUTHENTIC」おいしい無添加ほうじ茶ラテ」5本入300円(税別)作り方はネットで調べられます。



を

「物」の先には「事」がある。事の先には「つながり」がある。あり余っているから、すぐお金で買えるから、いつでもどこにでも捨てられるから。そんな社会と暮らしが、本当に望んだものなのか、快適なのか。疑おう。それには、きちんとして、わかりやすく一流の物差しがいる。その物差しは、風土と季節、文化的、伝統的がいい。みんなに共通で、しかも変わることがないから。日本人なら毎日の生活の中で使いこなせるから。

大切にしよう新聞

2018.6 JUNE



を食す幸せ

海に囲まれた日本だから
今月もどこかで旬三昧



とびうおは釣る魚ではなく「すくう魚」?日々の暮らしの中で「孫や家族の触れ合いを大事にしたい」と思っている方にオススメのイベントが、この時期の「とびうおすくい」。例えば伊豆市土肥港は地元漁師さんの船に乗って「トビウオをタモ網ですくう」というもの。しかも事前予約条件に「お子様同伴」という決まりがあり、原則として大人のみ参加は出来ない独特の企画のよう。きっと思い出深い体験、間違いなし。

*「とびうおすくい」は静岡、和歌山、宮崎、鳥取の各県で開催されているようです。

ともかく、お刺身でいただく



新鮮なものは刺身にととても美味。イワシやサンマとは違い脂が少なく風味があり、旨みもたっぷり。青魚特有の生臭さもほとんどありません。



「住まいのこんなところ“もったいない”と思いませんか？」

豊かさがごく普通になった時代。いろんな物が手軽に買えるようになったけど、「もったいない」「物を大切にしよう」という想いは忘れたくない。そんな想いを住まいにあてはめてみたら…。

「出入だけの玄関じゃもったいない」

人やものが出入りする場所を玄関といいます。

「玄関」という言葉の由来は「玄」という奥が深い悟りの境地に入るための「関所」。

つまり奥深い仏道への入り口という意味から来ているとのこと。

確かに厳かな雰囲気と佇まいを求められる場所ではありますが、だからと言って出入りするだけじゃもったいないくないですか？

ちょっと広めな玄関なら、お気に入りの自転車やアウトドア商品を置くこともできずまし、これらの道具をお手入れする場所として利用できます。



テーブルを置いて座れる場所を作れば気楽な接客スペースとしても利用でき、奥まで招く時間がない場合の接客や、それほど親しくない来客用として重宝します。



暑さ寒さ対策や防音対策と一緒に玄関の有効利用をお考えになってみてはいかがでしょうか。

偉人たちは「物」となって未来永劫、愛される。

銅像や石像は名所だからあるのか、有名だからあるのか、いやその精神を引き継ぐから、あるのである。

西郷さんが全国に拡散中？銅像焼酎、銅像徳利？

2018年、明治維新から150周年を迎え、今年のNHK大河ドラマは「西郷どん」。そんなことで、西郷さん関連の本やグッズが全国的に拡散中なんですね。なんと、西郷さんの「銅像焼酎」も全国に！

物は写真のような銅像姿の容器に焼酎が入ったもの。鹿児島空港や九州新幹線の鹿児島中央駅などで土産として売られているようで、今年一杯、こんなお土産をもらう人が増えそう…。



左は大久保利通、右が西郷さん。

ネットには、「焼酎王国鹿児島が舞台であるこのドラマを、薩摩焼酎を扱う酒屋として応援しない訳にはいきません!!」とあり、銅像タイプ以外にもこんな銅像徳利タイプものが…

薩摩隼人



国分酒造

西郷さんは写真を撮らせなかったということで、一体どんな姿・形であったかは、もっぱらいろいろと表現されている銅像頼みが現実。

銅像焼酎、銅像徳利を横に、あなたの西郷さん像を思い描くのも、今年ならではの左党の楽しみの一つに。

多彩に花咲いていた戦後昭和のファッション・メモリアル



ファッションの流れをたどれば「ああ、懐かしい」という感慨だけでなく、それはあなたのオシャレの足跡にぴったり合致するかも。「衣装はおんなの命」。思い出のお洋服や小物たちを、いつまでもあなたのお傍に。

モッズはロンドンの低所得層者から生まれたサブカルチャー

ミニスカートの後、ロンドンのモッズルックが日本でも流行。代表的なスタイルは、長髪、花柄や水玉など派手な色彩、細身のスーツをテーラーで仕立てて、細身のシャツ、股上の浅いスリムパンツ、ブーツなどでした。広まったのはビートルズ、ローリングストーンズが身に着けたからとも。



ビートルズが教えてくれた

1960年にザ・ビートルズ結成、1962年10月5日レコードデビュー。10年にも満たない活動の中でその輝きは今も色褪せないのはなぜ？代表曲の詩を読む事で、その意味を少しでも探れればと、ご紹介。

1965年12月に発表した6枚目のアルバム「Rubber Soul」ディランやバーズの影響を受けたフォークロック調の曲が多く、今回はその中から「インマイライフ」をご紹介します。

In My Life

思い出の場所がいくつもあって中には変わってしまった場所もあれば変わらず永遠に続く場所もいくつかあって去っていった場所もあれば、残った場所もあるどの場所にもそれぞれに思い出があるんだ
忘れることなんてできない
愛する人や友達との記憶の場所
亡くなった人たちもいれば まだ元気である人たちもいる
そのすべてを、この人生で僕は愛してきたんだ
でもそんな友達も愛してきた人達も君とは比べられない
これまでの思い出はみんな色褪せてゆく
愛を新しい物として受け入れてしまうから
愛情を失くしたことは一度もない
過ぎ去っていった人たちや物事を今もまだ愛している
ときには立ち止まって、思い出すこともあるけれど
それ以上に僕は君のことを強く愛していこうと思うんだ
ぜひ youtube で聴きながら
<https://www.youtube.com/watch?v=-eCh3y5VROM>